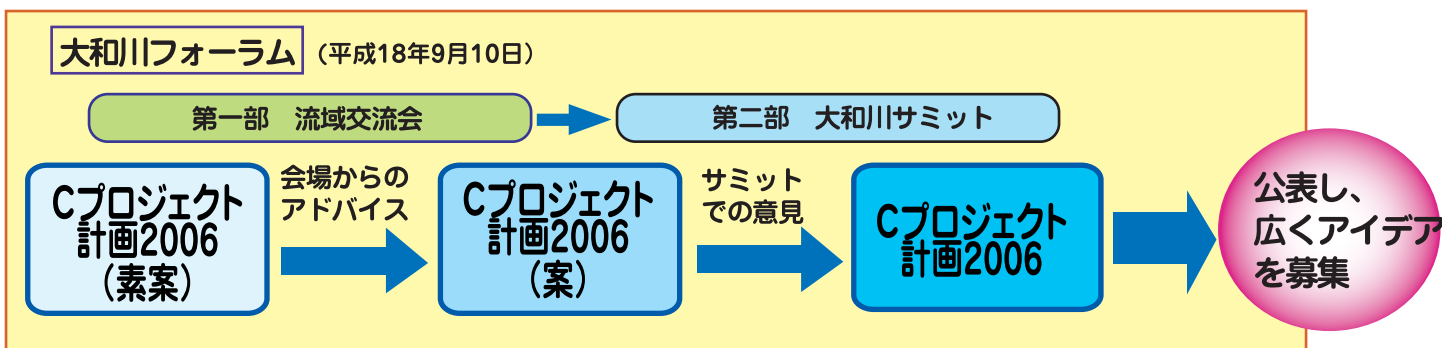


採択された「Cプロジェクト計画2006」をスタートさせるため、加速させるための進め方について意見交換を行い様々なアイデアをいただきました。今後も広くアイデアを求めていきます。



■大和川フォーラム 第三部 流域交流会

9月10日、大和川サミットで採択された「Cプロジェクト計画2006」について、早速、第三部流域交流会で速やかに実行していく第一歩として、一人ひとりが大和川再生を加速させるため「具体的に何が出来るか」「何をしていくか」の率先行動について意見交換が行われました。

意見交換の内容をまとめた模造紙



Cプロジェクト計画2006概要版

さらに・・・

今後とも、アイデアをいただきながら「Cプロジェクト計画」を進めていきます。さまざまな機会を利用し広くアイデアを募集していきます。



私が日頃実践していることでもいいのかしら

■流域イベントへの出展



流域自治体などのイベントに出展し、積極的に意見を募っていきます。

意見募集のアンケート
・交流会
・イベント
・ダイレクトメール
・HP 等

募集する意見

- ① Cプロジェクト計画に対する意見
— 今後盛り込んでいくべき内容
- ② Cプロジェクト計画2006実施にあたっての意見
— 実施の際に留意すべき事項等

■大和川河川事務所ホームページ Y K-NET
(<http://www.yamato.kkr.mlit.go.jp/>)

Cプロジェクト計画のサイトを開設しました。当サイトで、意見募集も行っています。



Cプロジェクト計画2006を実施していく際に参考

Cプロジェクト計画2007に向けて参考

あなたのご意見をお聞かせ下さい。

平成18年9月10日の大和川サミットにおいて、大和川再生を加速させる取り組みとして「Cプロジェクト計画2006」を策定しました。皆さまから様々な意見を募集し、今後の取り組みに活かしていく予定です。多くのご意見をお待ちしています。

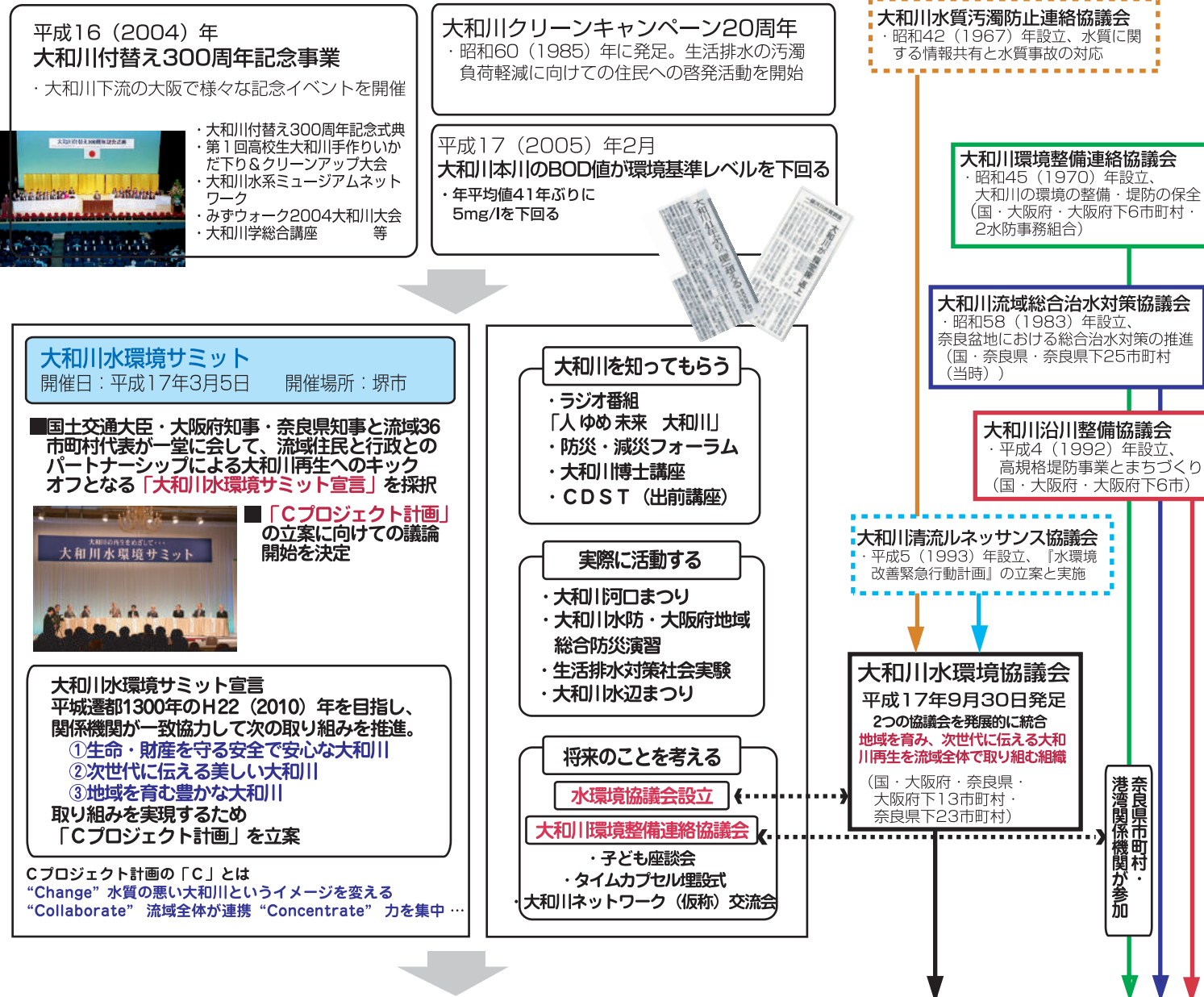
■Cプロジェクト計画2006へ対する問い合わせ先■

最寄りの関係機関へお問い合わせ下さい。

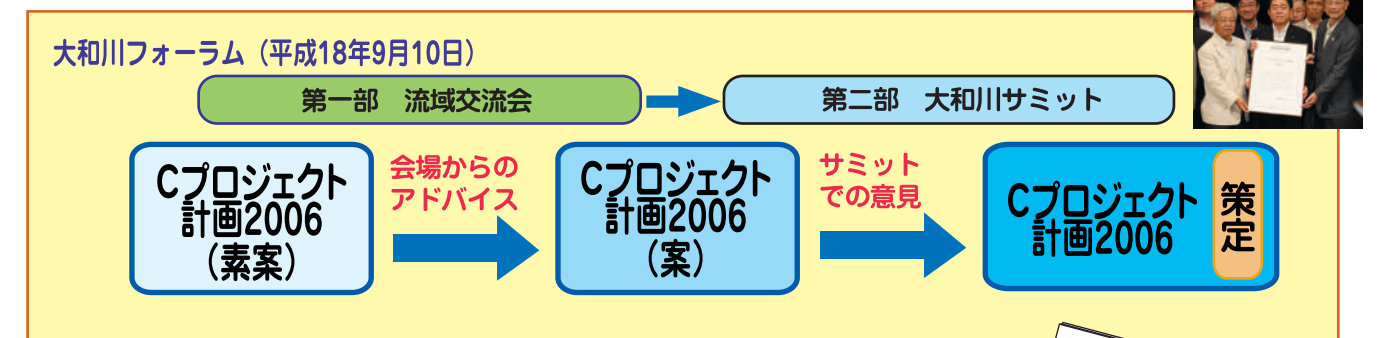
国土交通省近畿地方整備局大和川河川事務所・奈良県・大阪府
奈良市・大和高田市・大和郡山市・天理市・橿原市・桜井市・御所市・生駒市・香芝市・葛城市・宇陀市・平群町・三郷町・斑鳩町・安堵町・川西町・三宅町・田原本町・高取町明日香村・上牧町・王寺町・広陵町・河合町・大淀町・大阪市・堺市・八尾市・富田林市・河内長野市・松原市・柏原市・羽曳野市・藤井寺市・大阪狭山市・太子町・河南町・千早赤阪村

大和川サミット

大和川再生の気運の高まり～先人たちの努力と結果



「Cプロジェクト計画2006」は、平成18年9月10日に開催された大和川フォーラムで2つのステップを経て策定されました。第一部の流域交流会で素案に対するアドバイスを流域住民の方々より頂き、第二部大和川サミットで発表。国・奈良県・大阪府・流域38市町村長の議論を経て、「Cプロジェクト計画2006」は採択されました。また、水環境協議会では「Cプロジェクト計画2006(水環境編)」が策定されました。



「Cプロジェクト計画2006」の(骨子)

大和川は、
○ 治水・利水・環境の各分野で多くの課題を持つ川
○ 悠久の歴史を持つ日本文化の母なる川

このような特徴を持つ大和川 → 日本全国の河川の目標となる

○ 平成22年の平城遷都1300年を目指し、大和川再生を加速させる
○ 毎年、計画のフォローアップを実施
○ 力を集中して重点的に取り組む → 「大和川再生推進月間」「大和川の日」制定
○ 来年は、モデル的に9月を推進月間

再生を加速する主要プロジェクト

- 「生命・財産を守る安全で安心な大和川」をめざして
・流域の特性を踏まえて上下流のバランスをとり、関係機関が連携して治水対策等を推進
- 「次世代に伝える美しい大和川」をめざして
・関係機関が連携し、河川・下水道等の機能を最大限に活用することにより、早期の環境基準の達成
・本川下流部では、BODで夏期に3mg/L、盛夏に2mg/Lを目標に、
→ いざというときの水道水源となる大和川
・水遊びができるような大和川
・一昔前まで泳いでいた大和川の復活を目指す
- 「地域を育む豊かな大和川」をめざして
・大和川をより一層理解するための上下流・左右岸交流の推進
・流域住民と行政とのパートナーシップをより一層充実させるネットワークづくり等の推進
・流域住民と行政、学識経験者、企業等と行政機関が連携・協働・交流できる仕組みづくりや拠点の確保 等

再生加速のための留意事項

- 大和川は全国の河川の目標であること
- 歴史・文化を活かした取り組みの推進
- ホタルが舞う川づくりなど自然環境への配慮
- 大和川を知るミュージアムなど拠点の整備
- 上下流など広域的な協働、民間との連携
- 世代間の連携、次世代への伝承
- 2010年には全川で水道水源として利用可能な水質
- アユが100万匹のぼる川
- 全ての下水処理場で高度処理を実施

「Cプロジェクト計画2006(水環境編)」-----水環境協議会で策定

